

# 指定食肉（豚肉及び牛肉）の安定価格 肉用子牛の保証基準価格等 算定概要

生産局

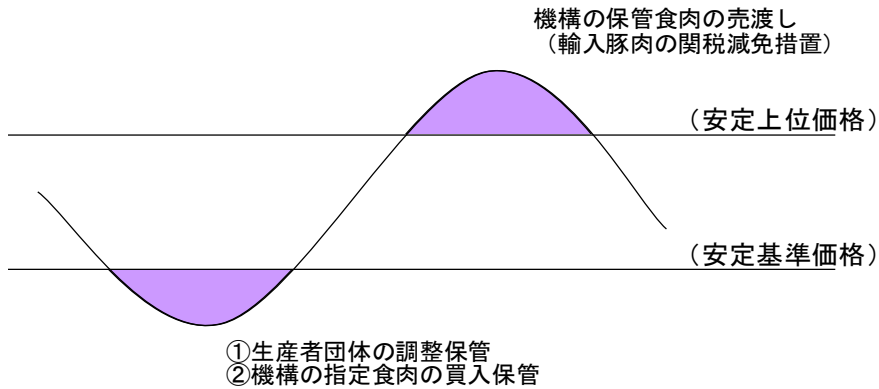
平成29年12月



# 指定食肉(豚肉・牛肉)の価格安定制度の概要

○ 食肉の価格安定制度は、(独)農畜産業振興機構の需給操作等を通じて安定価格帯の幅の中に卸売価格を安定させることにより、価格の乱高下を防ぎ、消費者への食肉の安定供給を図るとともに、生産者の経営安定に資する。

## ◎ 価格安定制度の仕組み



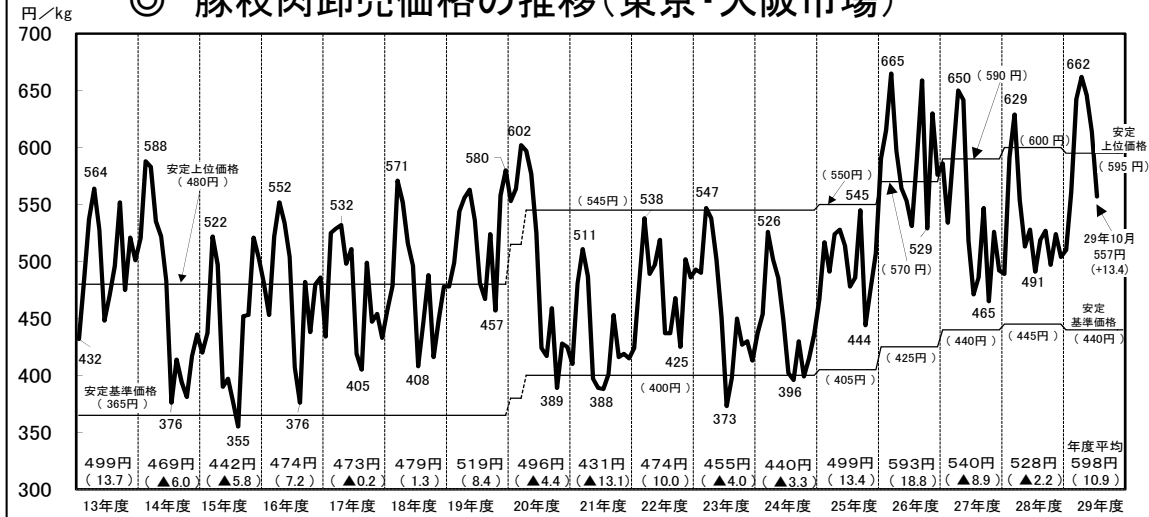
## ◎ 指定食肉の安定価格(29年度)

(単位:円/kg)

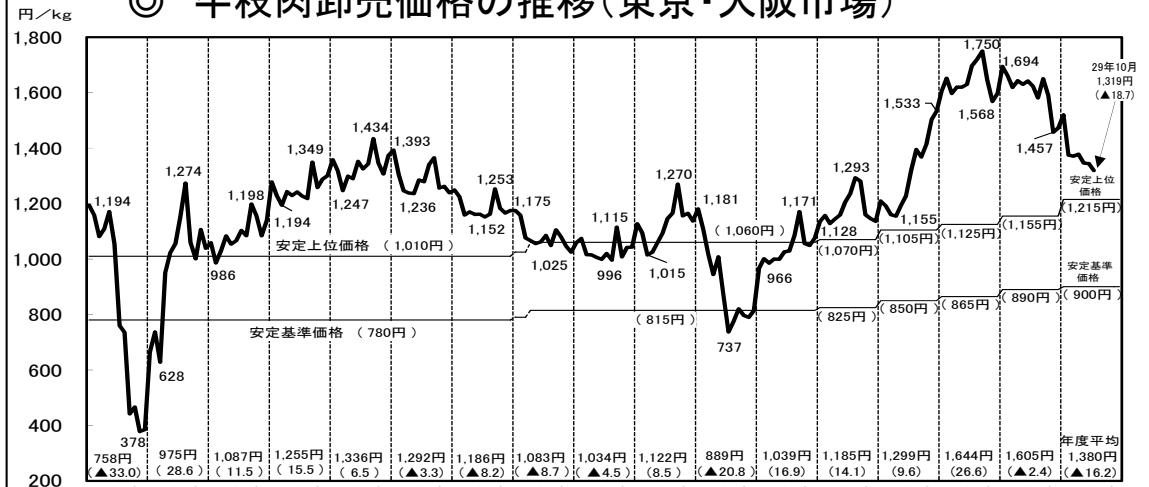
	豚肉	牛肉
安定上位価格	595(▲5)	1,215(+60)
安定基準価格	440(▲5)	900(+10)

注:( )内は前年度からの改訂額

## ◎ 豚枝肉卸売価格の推移(東京・大阪市場)



## ◎ 牛枝肉卸売価格の推移(東京・大阪市場)



# 指定食肉(豚肉及び牛肉)の安定価格について

## ○ 指定食肉(豚肉及び牛肉)の安定価格

### 基本的な考え方：

豚肉や牛肉の卸売価格は一定期間でその水準が一巡する特徴があるが、この一定期間の過去の販売価格で生産者の生産コストがまかなわれていたことに注目して、季節変動を加味して一年を通じて生産コストがまかなわれる豚肉・牛肉の卸売価格の範囲を算出する。

農家販売価格とは  
生体1kgあたり単価のこと。

豚肉

30年度の推定生産費  
24~28年度生産費の平均

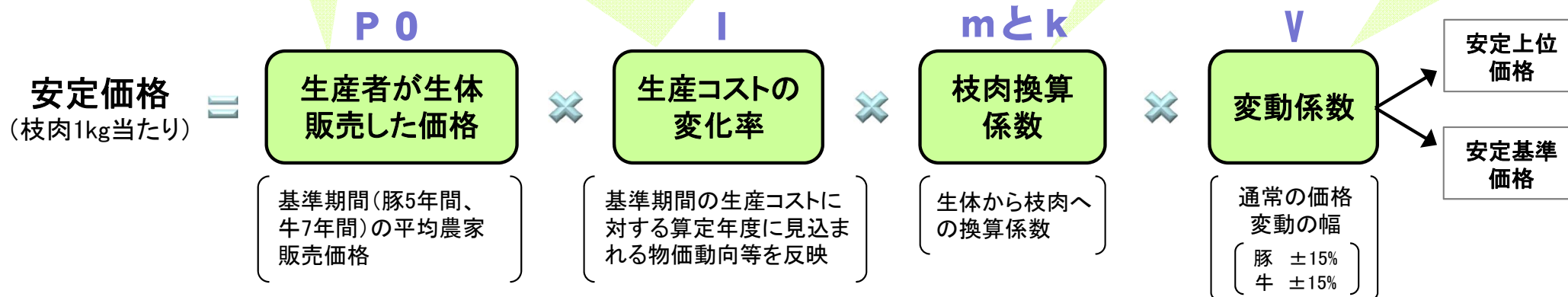
牛肉

30年度の推定生産費  
22~28年度生産費の平均

● 豚は直近5年(H24.11~H29.10)、  
牛は直近7年(H22.11~H29.10)の  
農家販売価格と枝肉卸売価格との  
回帰関係から算出。

季節による生産量の増減  
や出荷動向により生じる  
価格変動の幅。

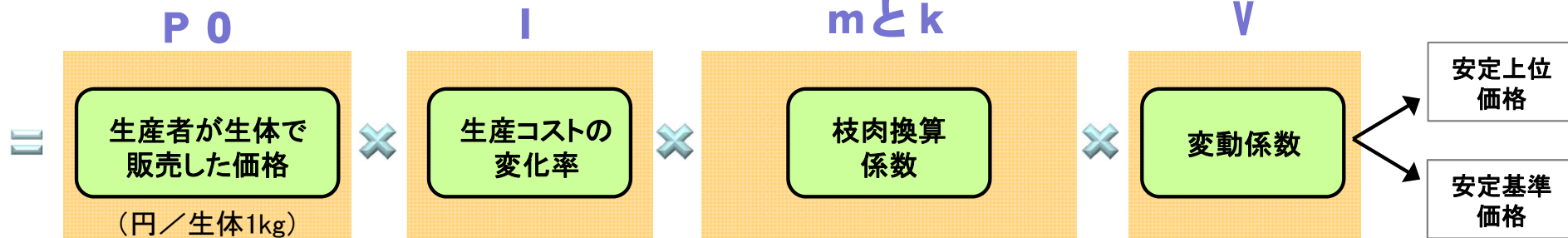
[ 基本算式 ]



# 指定食肉(牛肉及び豚肉)の安定価格について

[ 算 式 ]

安定価格  
(円/枝肉1kg)



[ 試 算 ]

豚肉

$$= \left\{ \left( 356 \text{ 円} \times 0.985 \right) \times 1.475 + 2.10 \right\} \times (1 \pm 0.15)$$

351円

$$= \left[ \begin{array}{l} 597 \text{ 円/kg} \\ 441 \text{ 円/kg} \end{array} \right] \Rightarrow \begin{array}{l} 595 \text{ 円/kg } (\pm 0) \\ 440 \text{ 円/kg } (\pm 0) \end{array}$$

牛肉

$$= \left\{ \left[ \left( 1,213 \text{ 円} \times 0.990 \right) \times 0.115 \right] + \left[ \left( 417 \text{ 円} \times 1.103 \right) \times 1.934 + 61.57 \right] \right\} \times (1 \pm 0.15)$$

1,201円

460円

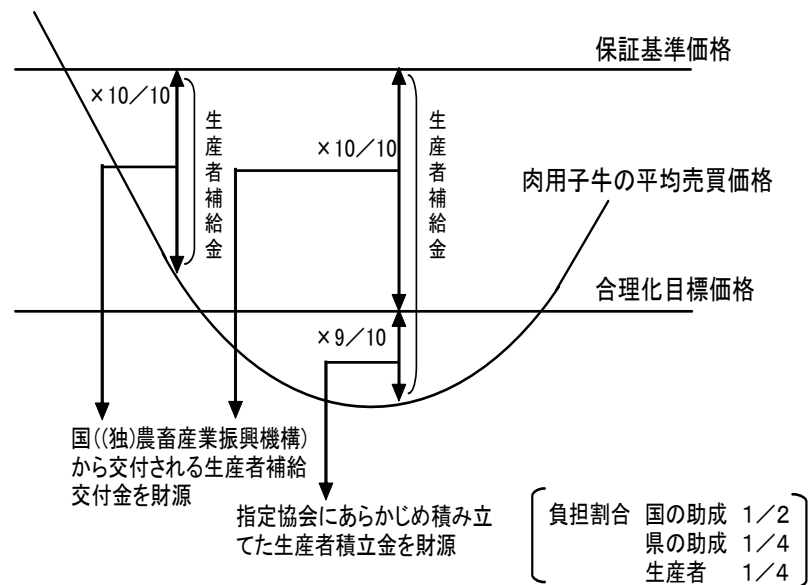
$$= \left[ \begin{array}{l} 1,253 \text{ 円/kg} \\ 926 \text{ 円/kg} \end{array} \right] \Rightarrow \begin{array}{l} 1,255 \text{ 円/kg } (+40) \\ 925 \text{ 円/kg } (+25) \end{array}$$



# 肉用子牛生産者補給金制度の概要

- 牛肉の輸入自由化に伴い、導入された制度(平成2年4月より)。
- 肉用子牛の価格が低落し、保証基準価格を下回った場合に生産者補給金を交付することにより、肉用子牛生産の安定を図る。
- 平成25年度第2四半期以降、対象となる全ての品種において子牛価格が保証基準価格を上回っており、生産者補給金は交付されていない。

## 仕組み

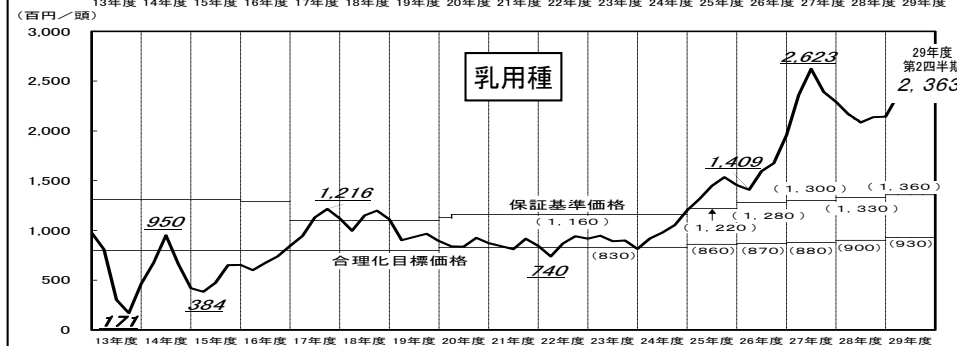
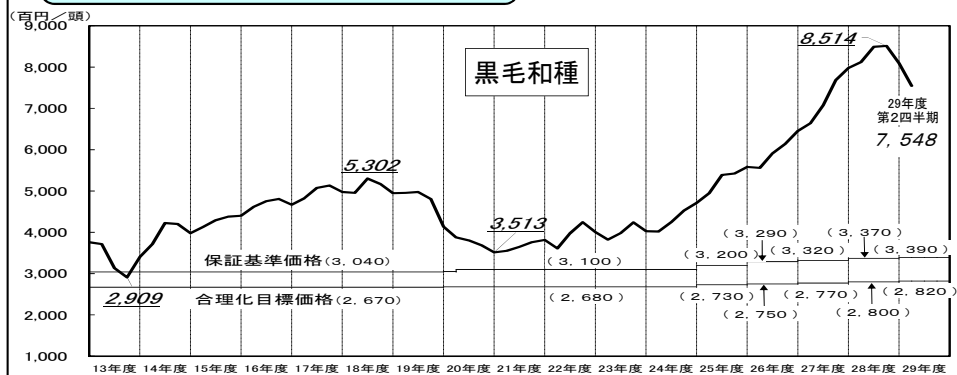


## 保証基準価格及び合理化目標価格(平成29年度)

(単位: 千円/頭)

	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種	乳用種	交雑種
保証基準価格	339	309	221	136	210
合理化目標価格	282	259	150	93	152

## 平均売買価格の推移



## 補給金交付実績

(単位: 億円)

年度(平成)	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
交付額	325	187	244	175	26	7	29	110	72	79	58	51	0.9	0	0	0



# 肉用子牛の保証基準価格について

## 1. 肉用子牛の保証基準価格

### 基本的な考え方：

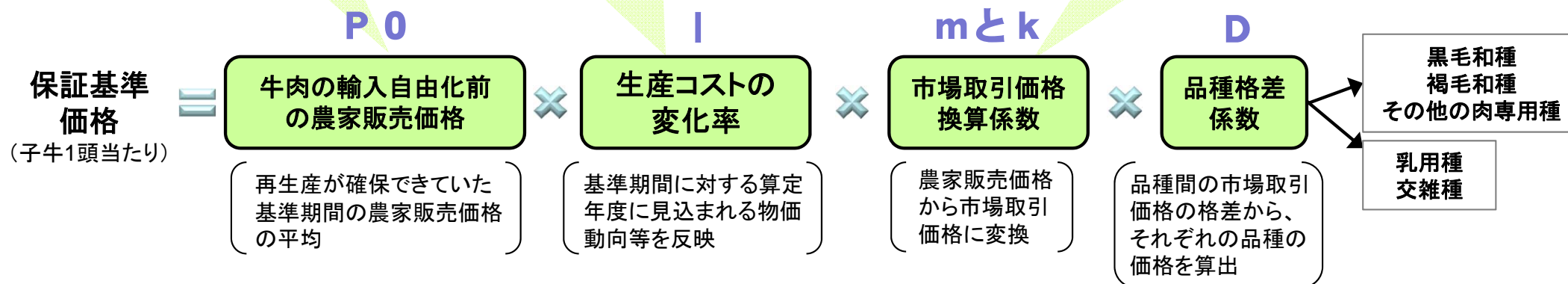
平成3年の牛肉の輸入自由化の影響を緩和するため、輸入自由化前の農家販売価格の水準を維持し、子牛の再生産を保証する市場取引価格を、輸入自由化前の農家販売価格を基にその後の経済情勢の変化を加味して品種毎に算出する。

● 牛肉輸入自由化前7年間 (S58.2~H2.1)の子牛1頭あたりの農家販売価格。

30年度の推定生産費  
-----  
輸入自由化前(7年間)の子牛生産費

● 直近7年(H22.11~H29.10)の農家販売価格と市場取引価格の回帰関係から算出。

### [ 基本算式 ]





# 肉用子牛の保証基準価格について

## [ 算式 ]

保証基準  
価格

(子牛1頭当たり)

=

## [ 試算 ]

和子牛

=

① 黒毛和種

② 褐毛和種

③ その他の肉専用種

乳子牛

=

④ 乳用種

⑤ 交雑種

P 0

I

mとk

D

牛肉の輸入自由化  
前の農家販売価格

生産コストの  
変化率

市場取引価  
格換算係数

品種格差  
係数

{ ( 302, 660 円

① 1. 057 )

② 1. 036 )

③ 0. 979 )

× 1. 041 + 6, 771 }

① 1. 003

② 0. 933

③ 0. 704

= ① 340, 818 円 ⇨ 341, 000 円/頭 (+2, 000) (黒毛和種)

= ② 310, 860 円 ⇨ 311, 000 円/頭 (+2, 000) (褐毛和種)

= ③ 221, 917 円 ⇨ 222, 000 円/頭 (+1, 000) (その他の肉専用種)

{ ( 167, 246 円

④ 0. 816 )

⑤ 1. 062 )

× 1. 032 + 190 }

④ 1. 000

⑤ 1. 177

= ④ 141, 030 円 ⇨ 141, 000 円/頭 (+5, 000) (乳用種)

= ⑤ 215, 967 円 ⇨ 216, 000 円/頭 (+6, 000) (交雑種)

# 肉用子牛の合理化目標価格について

## 2. 肉用子牛の合理化目標価格

### 基本的な考え方：

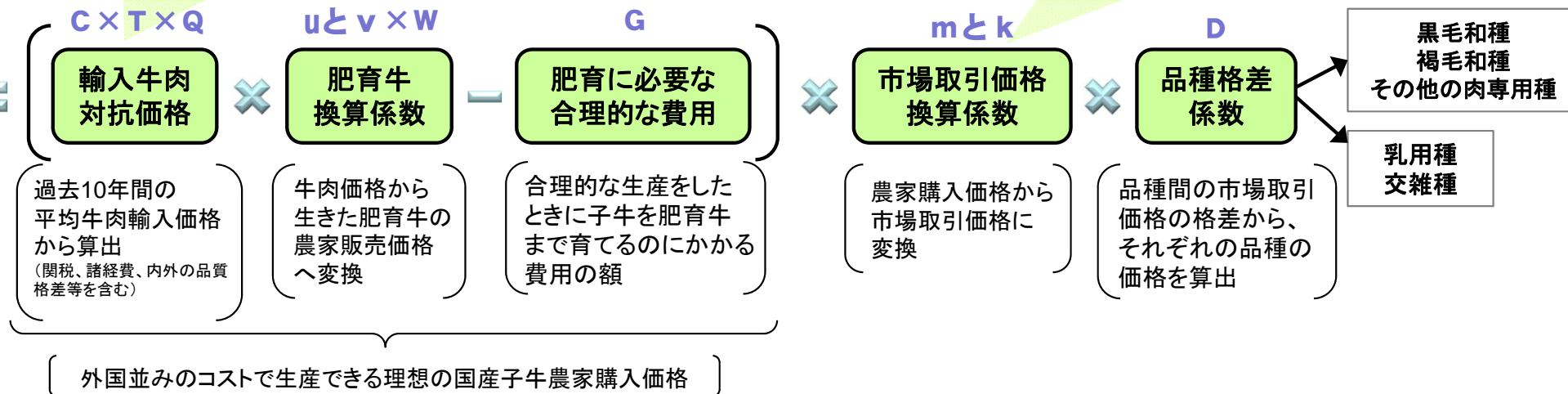
外国産牛肉に対して競争力のある国産牛肉を実現するために、子牛から成牛までの肥育に必要な合理的な費用を勘案して、目指すべき子牛の市場取引価格を品種毎に算出する。

●輸入牛肉に対抗できる国産牛肉として、国産牛肉との品質格差分を上乗せ。

●直近7年(H22.11~H29.10)の農家購入価格と市場取引価格の回帰関係から算出。

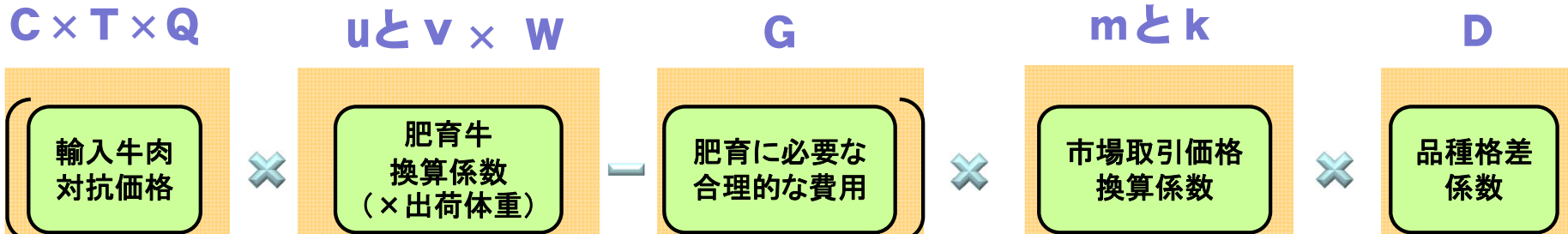
[ 基本算式 ]

合理化  
目標価格  
(子牛1頭当たり)



# 肉用子牛の合理化目標価格について

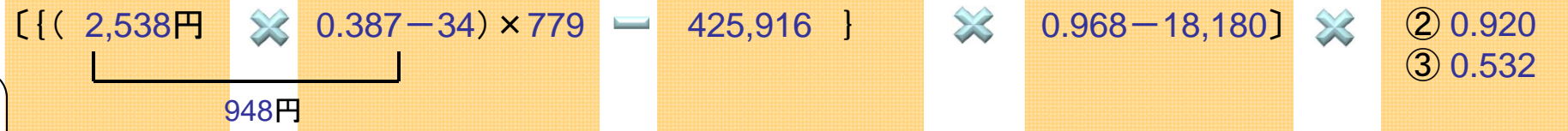
[ 算 式 ]



合理化  
目標価格  
(子牛1頭当たり)

[ 試 算 ]

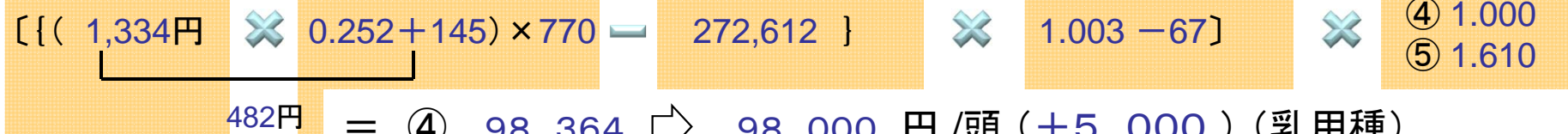
肉専用種



- ①黒毛和種
- ②褐毛和種
- ③その他の肉専用種

= ① 284,346 ⇨ 284,000 円/頭 (+2,000) (黒毛和種)  
 = ② 261,337 ⇨ 261,000 円/頭 (+2,000) (褐毛和種)  
 = ③ 151,121 ⇨ 151,000 円/頭 (+1,000) (その他の肉専用種)

乳用種



- ④乳用種
- ⑤交雑種

= ④ 98,364 ⇨ 98,000 円/頭 (+5,000) (乳用種)  
 = ⑤ 158,366 ⇨ 158,000 円/頭 (+6,000) (交雑種)

